

まち・コミ

11月号

1998年11月1日発行

発行
阪神淡路大震災まち支援グループ
まち・コミュニケーション

〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5兵庫商会3F
TEL 078-578-1100/FAX 078-576-7961
e-mail m-comi@cx.airnet.ne.jp
URL http://www3.airnet.ne.jp/m-comi/



震災の経験を生かし 共有する試み

震災とは何だったのか

神戸以外からでもOK!

スタッフ大募集

どんな些細なことでもOK!

昨年の5月～7月、東京において「震災とは何だったのか」と題したフォーラム&シンポジウムを、まち・コミの企画で行いました（ご記憶下されている方もおられると思います）。その第2弾であり「決定版」ともいべき同名のプロジェクトを、本年度後半よりいよいよ始動いたします。

未曾有の都市型自然災害であった「阪神・淡路大震災」が、都市に、市民に、日本に投げかけた課題と教訓とは何か。まもなく震災から5年目を迎えるにあたり、今一度まち・コミ流(?)に整理し、発信していこうというこの企画、多くの方々のご協力なしでは実現はできません。そこで今回、検証作業を支えて下さる「検証スタッフ」を広く募集いたします。神戸内外を問いません。

「震災の教訓」を生かすも殺すも私たち次第といえます。ぜひとも検証のプロセスを共有して、「共同作業」にご参加・ご協力を!!

「企画の具体的な内容は?」「何を手伝ったらいいの?」それは次のページ

もくじ

P 1・2 「震災とは何だったのか」スタッフ募集
P 3 焼け跡のくすぶり ～十三回～
神戸世相 ～きのう・きょう～
P 4・5 震災・まち・ひと 第10回
まち・コミ おすすめBOOK

P 6 真由美&のぶの 御蔵遺跡 現場レポート!!
P 7 まち・コミ 活動報告
まち・コミ NEW FACE
P 8 まち・コミ今月も行く/募金・協力のお礼
カンパ・募金のお祝い/編集後記

主旨(抜粋)

- ◆2000年を迎える前に、史上まれにみる「都市型災害」であった阪神・淡路大震災を振り返り、その意味するものを検証する。
- ◆過去報道・報告されてきたような「被害状況」や「被災地の惨状」だけを取り上げるのではなく、「震災が浮かび上がらせたもの」が、“日常”のなかでどのように生かされているのか(またはいないのか)を積極的にとりあげる。→震災の経験を日本の中でどのように生かされているのか(いないのか)検証。
- ◆「震災の教訓を生かす」、その具体的な手法の模索。

具体的には・・・

各テーマは
その専門に通じて
いる方のご意見を
軸にして内容を組
み立てていきます。

情報の収集
取材活動

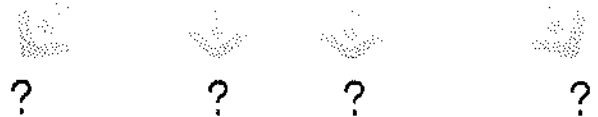
整理・編集

内容の構成を検討

「WEBまち・コミ」上にて発表

留意点

- ・被災地で現実に行われてきたこと
- ・問題の分析
- ・その問題のルーツ
- ・問題解決への取り組み
- ・反省をふまえて実践されてること
- ・反省をふまえず放置されていること



現在、「第1部 都市システム編(仮)」として
「死者6500人の経験・都市防災・・・室崎益輝氏(神戸大教授)」
「復興と都市計画・都市計画・・・広原盛明氏(HAR基金委員長)」
「経済の復興・都市経済・・・遠藤勝裕氏(元日本銀行神戸支店長)」
で構想・準備中。詳細は追ってお伝えします。

・情報収集ボランティアスタッフ及び情報整理/編集ボランティアスタッフを広く募ります！もちろん、ともかく関心はあるからやれることがあればやってみたいという方、大歓迎いたします！

・「検証プロジェクト」専用のメーリングリストを開設する予定です。電子メールを打てる環境にある方の積極的なご参加を！

・資金難の中での企画です。(いつも多くの方々から戴いている上で恐縮ですが)主旨に賛同して下さる方からのカンパを求めます!!また、「こういう企画ならこういう方法がある」といったアイデアや情報があればぜひ教えて下さい！(お金のことに限らず)

・その他ご意見等々あれば、電話・FAX・e-mail等で受付いたします。

スタッフの申し込み・企画へのお問い合わせは担当・小野までよろしくお願いいたします

焼け跡のくすぶり(十三回)

【再び神戸沖空港問題を考える】

去る八月二十一日より一ヶ月の間、住民投票に向けて署名集めが行われ、神戸市民が熱くなった。前哨戦のピラ配り、期間中の街頭署名集めに参加して、神戸市民の空港に対する疑問の言葉を沢山聞いた。これは震災で、家族や友人、家や仕事、多くのものを失った人々が優しさを体感し、目覚めたものと実感した。

「大事なことは住民自ら判断し、決めよう」と云う運動になって広がりを見せた。特に主婦の方々の積極的な動きが目をついた。政党にも何の関係のない人達が勝手連で動いて民意を問うに、この三十五万強の署名、そして有効数三十一万弱はすごい意味を持っている。始めてのことです戸惑いながら、その書式たるや聞いたこともない受任者から始まり、しかも行政区単位で、自署での住所、署名日、氏名、生年月日に捺印(拇印でも可)。特に女性にとって生年月日を記すことは抵抗あり、さらに男女を問わず拇印を押すことの意味、それは警察官の前での行為を想起させ、嫌悪を感じさせる。このことを乗り越えて敢えて署名したものである。乗客が、貨物が増え、空の時代の到来と云う市当局の発想。今着工しておかねば将来の神戸の発展に禍根を残すと。その奥には、神戸空港が出来たら、市街地のど真ん中にある京阪神や、その背後からも最も便利な大阪空港は危険の上もないので廃止。そして第三種神戸市営空港は、規制緩和で国際空港に昇格と読んでいる様である。民間人は確実な需要が見込まれ、費用対効果があり、さらに今あるものをより効率利用出来ないか、尚また、それが世の中に本当に必要なものかを考え抜いて決断する。少子高齢化が進み、環境問題を糾される時代にあつて余りにも「カケ」と考えられたのではないか。推進に当たる神戸市長、兵庫県知事、商工会議所会頭と市民の間にはほころびを感じる。

「破れたとき直ぐ一針繕っておけば大きな縫いをせずにすむ」

株兵庫商會 田中保三

～神戸世相～ きのう・きょう

- 西神南の復興住宅に来月 600 世帯、地元連絡会が入居前交流会、あす 800 人参加希望、友愛訪問拡大も(神戸新聞 98.10.3)：神戸市西区の西神南ニュータウンで災害復興公営住宅の建設が終了(当地区全部で 1400 戸)。高齢者世帯が多く、住民やボランティアで連絡会を結成し見守り活動を。またボランティアグループが独居高齢者宅への友愛訪問や保健婦と共同でミニイベントを開始。この入居で対象が増えるのでボランティアの育成にも取り組んでゆく。
- 震災ボランティアら 新湊川被災地へ、拠点作り支援に大活躍(神戸新聞 98.10.5)：9月22日の大雨による河川はんらんでも市民生活への影響が続く神戸市兵庫区で、震災ボランティアらが拠点を作り、高齢者や障害者を中心に支援。被災地 NGO 協働センター(神戸市兵庫区)など被災者支援のグループと、兵庫区ボランティアセンター、神戸市社会福祉協議会が協力し、9月25日に「新湊川水害ボランティアセンター」を発足。
- 震災で学んだ成果を文集に、須磨高生ら「被災地をあるく」(神戸新聞 98.10.19)：生徒 320 人が 7、8 人ずつの班に分かれ、兵庫区の湊川公園から長田区の菅原市場、「神戸の壁」、鷹取協会まで歩いた。班ごとに壁新聞を作成。文集では、生徒 1 人ひとりが校外学習で感じたことや震災 3 年目で思うことを作文に。先月 5 日には、3 年生の代表が菅原市場と鷹取教会を訪れ、文集約 30 部を寄贈。
- 公営住宅募集、仮設優先枠を廃止、県営と神戸・尼崎など 4000 戸、「被災者枠」を新設(神戸新聞 98.10.20)：年内で最後の 4000 戸の募集が 20 日始まったが、大半の仮設住宅入居者の転居先が決まったため仮設優先枠を廃止。代わって仮設以外の被災者も対象に入れた 8 ～ 6 割の被災者優先枠を設ける。神戸市内は 2500 戸、垂水・西・北区が多い。
- 兵庫県知事に貝原氏 4 選(神戸新聞 98.10.26)：即日開票の結果、現職貝原氏(自民・民主・平和・自由・社民・公明推薦)が新人・県原水協事務局長梶本氏(共産推薦)に、123 万 723 票対 45 万 2,332 票で当選。貝原県政の評価と震災復興施策のあり方が争点となった。

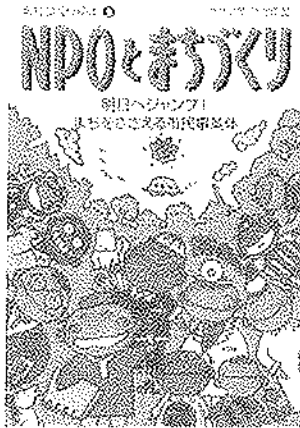
- 9月1日現在の県推計人口、546 万 9379 人、被災地の 10 市 10 町村依然 10 万 9702 人少ない(神戸新聞 98.10.1) 兵庫県全体では震災前に比べて 5 万 7,310 人減。被災 10 市 10 町村は 347 万 9,424 人。長田区では依然人口流出が続く。

《「住まい」とは何だろう》③

～豊かな居住環境を生み出すための模索・日本編～

前はアメリカはサウス
ブロンクスのCDC(コミュニテイ開
発公社)についてご紹介しま
したが、残念ながら日本に
はまだ事実上MBDのような
組織は存在していません
(何せこの12月からやっとN
PO法が施行されるぐらいで
すから)。

ただし、住まいや住環



同じシリーズで「高齢者
とまちづくり」「こども
とまちづくり」がある

境をよりよいものにするた
めの取り組みは多くの地域
でなされており。

今回は「NPOとまちづく
り」(編著 NPOとまちづく
り研究会 発行 風土社)に紹介
されている取り組みをほん
のさわりだけ紹介させてい
ただきます。(詳細は同著を
是非ご覧下さい!興味深い
事例多数あり)

ゆたかな楽しい住まいづくりを目指して

民間企業による、ライフハウス/シニアハウスへの取り組み

((株式会社 生活科学研究所))

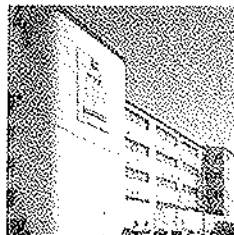
「ライフハウス」とはバリアフリー対応の建築仕様・緊急時の医療対応・サークル活動などハードとソフト両面に配慮がされており、今は元気で趣味や仕事を楽しまたいという人が対象。

「シニアハウス」とは介護設備やスタッフが充実したハウスで、安心して自分らしく自立した生活を営むためのサービスや施設を整えています。

1985年、日本で初めての中高年向けの「コーポラティブ」住宅を手がけて以来、生活科学研究所は「ライフハウス/シニアハウス」の企画・建設・管理・運営を中心に事業を進め、現在全国に10棟の実績を有しています。



ライフハウス浦和 2(埼玉)



シニアハウス武蔵浦(埼玉)



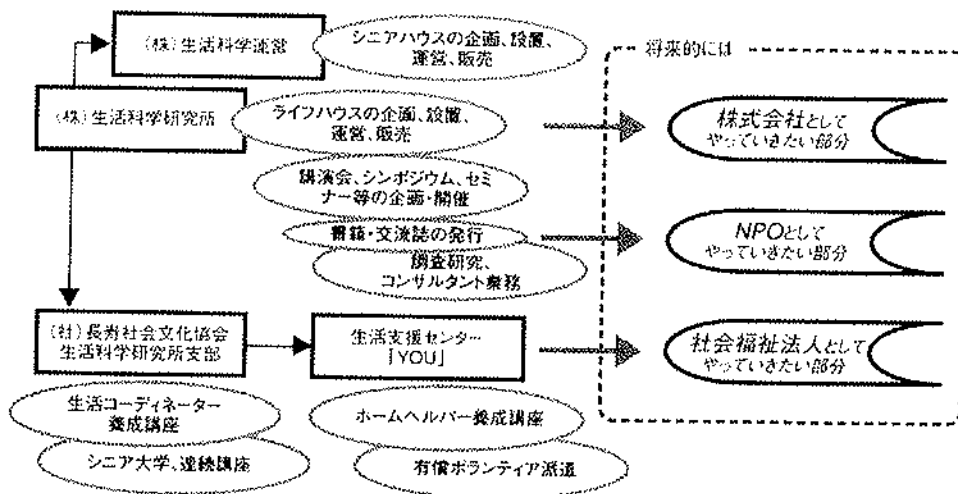
シニアハウス江坂(大阪)

「ライフハウス/シニアハウス」は都市型の集合住宅で生活科学研究所の商品名です。研究所は87年に社会的責任を明確にするために株式会社となり、その後も高齢者の住まいが「施設」ではなく「わが家=ハウス」の感覚で住まえる環境づくりを目指しています。従来の老人ホームのように地域から孤立せず、共有スペースを地域に解放することで、新しいまちづくりの中心となることを目標としています(シニアハウスは有料老人ホームの範疇に入ります)。

生活科学研究所では入居者の高齢化をにらみながら、全介護型の「ナーシングホーム」及び、痴呆性老人を対象とした「グループホーム」を検討しています。また、『命の介護』『生活の介護』に加え、個人の思想・信条・価値観を尊重した援助を行う『文化の介護』が出来る人材育成にも注目しています。

また、株式会社である研究所では「営利目的」として見られ、活動しづらい面があることから、今後はNPO的な展開を視野に入れた多様なネットワーク構想が描かれています。

■生活科学研究所とNPOを鑑みた今後の活動の展望



地域でみんなが暮らせるように

「シニアりびいん」方式を生かした高齢者の生活を支援するための住まいづくり
 ((福祉マンション研究会))

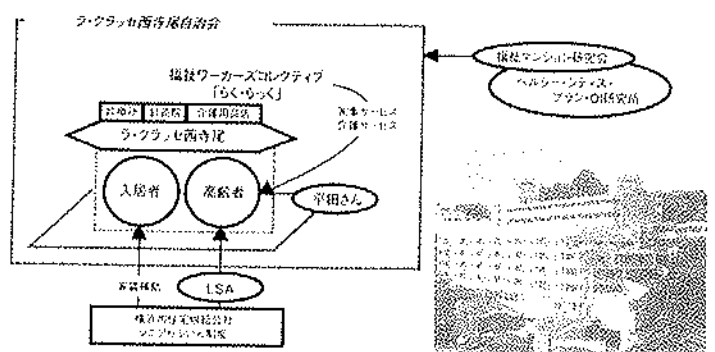
「シニアりびいん」とは、民間の土地所有者の建設する賃貸住宅を横浜市住宅供給公社が借り上げて、国の特優賃制度に基づいて家賃補助を行う「ヨコハマりびいん」制度の高齢者版です。家賃補助以外にも巡回相談員の派遣と緊急時対応による生活支援が組み込まれています。

1991年に創設されたこの制度の第1号が「福祉マンション研究会」が中心になって推進してきた「ラ・クラッセ西寺尾」でした。

福祉マンション研究会を生み出したのは、建築家や鍼灸師が中心となって各専門分野における視点を有機的に結合した「OI研究所」です。OI研究所自体もNPOですが、研究所のメンバーと地主との出会いが研究会発足につながり、行政の支援制度が加わって「ラ・クラッセ西寺尾」が完成したわけです。

「高齢者と障害者が隔離されて生活するのではなく、一般の人々と『普通に』暮らせる」住宅を目指した研究会の成果は「ラ・クラッセ」の建物の様々な所に反映されました。さらに「福祉マンション」のキーとなる自治会づくりも研究会の成果を生かし、伸びやかな運営をされています。「ラ・クラッセ」の隣の地主も福祉マンションに関心をもち、同規模のマンションが完成する予定です。生活をサポートするしくみづくりが今後の大きな課題です。

福祉マンション研究会とラ・クラッセ西寺尾の関係



本当に簡単なお紹介で申し訳ありません。是非一度本をお目通し下さい！(小野)

真由美&のぶ の 御蔵遺跡 現場レポート！！

先月号の「まち・コミ活動報告」にもあるように、御蔵5丁目の共同化再建住宅予定地では“遺跡発掘調査”が行われています。この調査の対象となるのは、『埋蔵文化財包蔵地〔註〕』に指定された地域です。“遺跡発掘”と言うと土器などの埋蔵物ばかりを連想しがちですが、現場では、むしろ、昔の地面を再現させることが中心に行われていきます。

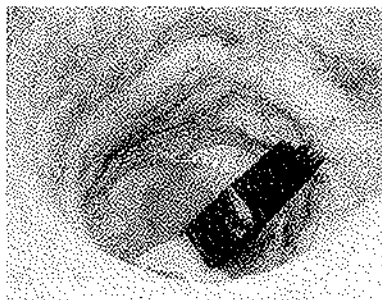
〔註〕文化財（遺跡等）が埋まっている可能性が高い地域。この地域の中で、これから水道工事などで地面を掘る新しい道路の所や建物の建てられる所（基礎工事・配管工事などで地面を掘る所）などが調査の対象となります。駐車場にする場合などでは地面を掘る必要がないので、行われません。

さて実際の作業の流れですが、ご存知の通り地面を縦に切ると土の色や質の違いでわかるいくつかの《層》に分かれています。その層の一番上がその年代の地面を表します。例えば一番上の近年の地層だけを全部取り除くと数百年前の地面の形が出てくるので、そうした形から当時に何が在ったかを判断します。（吉田 のぶ）

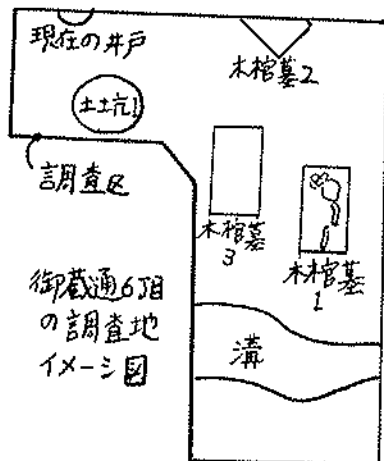
去る10月4日に御蔵通6丁目の区画街路予定地に当たる第9次（9番目）の発掘調査の現場で、説明会がありました。

現在の地面の下、約1.0mのところから、平安時代（今からおよそ900年前頃）のお墓が3か所、土坑と呼ばれる穴（「水溜め」またはゴミ捨て場）が1か所、溝が1か所で見つかっています。

現在調査中のため、細かいことについてはまだわかっていませんが、このお墓は、『木棺墓』と呼ばれる遺体を木棺（木で作られた箱型のお棺）の中に納めて埋葬するタイプのお墓であると思われます。木棺墓1からは、須恵器碗3個と土師器小皿5枚と人骨がみられました。碗と小皿は、お供え物で、お棺の上に置いてあったものが、木棺のふたが腐ったことにより、頭蓋骨の横に置いてある形で見つかりました。木の枠は腐って、ふたの1部が残っているだけでした。人骨は頭蓋骨の左側と、右腕、両足が確認できています。木棺墓2は、今回の発掘調査が道路部分のみであるため、木棺墓の下の方しか発掘されていませんが、足の骨の1部分が見つかりました。木棺墓3は、ちょうど墓の形に土の色が変わっていたため、ここにも木棺墓があったのではないかと思います。屋敷墓（それぞれの家の庭に作った墓）か墓地かはまだわかりません。



←御蔵5の5から出てきた、約二千年前の井戸の跡!!

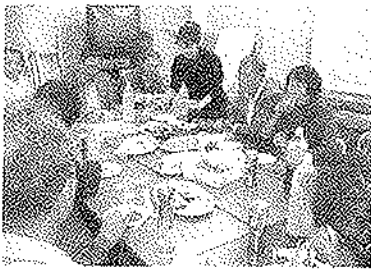


土坑1は、現代の井戸のすぐ横にあること、そして常に水がたまっている状態であるということから、水溜めであった可能性が高いということです。

この層の下にもう1層あるらしく、今後新しい発見があるかもしれません。（戸田 真由美）

まち・コミ活動報告

共同再建支援 秋の夜長の「食事会」でちょっとひといき

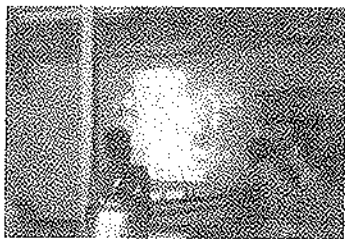


住宅市街地総合整備事業の申請作業が進む中、久しぶりに共同化組合のメンバーによるお食事会（宴会・・・）がなされました。本当は「お月見の会」として月半ばにセッティングするも台風であえなく延期。10月の最後の土曜日に行われました。久しぶりということもあり、夜遅くまで談笑の花が咲きました。遺跡発掘は隣のページでも触れていますが、無事調査は終了。共同化の敷地から特に「大物」は発見されませんでした。

まちづくり支 まちづくり協議会役員会再開！テーマは住宅再建と公園

夏の間は「小休止」していた協議会の役員会が再開しました。御蔵5・6丁目は現在仮換地指定が約40パーセント進んでいますが、仮換地指定後の住宅再建の支援と区画整理で生まれる新しい公園の内容をどうするかが当面の課題となります。今後継続的に会合がもたれます。

まちづくり支 「栗ご飯とチャンバラ映画上映」和やかに行われる



先月本誌でも予告した「みくら5・6・7我が街の会」主催の『栗ご飯とチャンバラ映画上映会』は台風一過の秋晴れのもと、無事行われました。年輩の方々が中心に約40名ほどの住民の皆さんが参加下さり、佐用郡の甘くておいしい栗ご飯を賞味いただいた後、「アラカン」「バンツマ」の映画でしばし和やかな時を迎えられました。

勉強会の企画 パースペクティブ第3回 講師は弁護士・斉藤浩氏



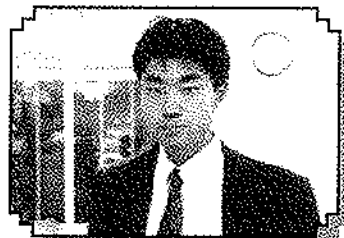
3回目を迎えた「パースペクティブ」。今回の会場はおなじみ兵庫商会3F会議室。講師は震災後ボランティアで被災地支援にずっと携わっている弁護士の斉藤浩氏でした。例によって20名弱の少人数のもと、斉藤氏の復興支援のプロセスを伺った後、深夜まで議論の火花（？）が散りました。

まち・コミ NEW FACE

戸田真由美
(とだまゆみ)
22歳
明石市在住



新聞を読んでいて偶然、まち・コミと出会いました。編集経験がないだけでなく、パソコンは文字を打つことしかできない私なのに、編集を任されてしまって困っています。前任者の酒井さんにまけないように頑張るつもりですが、未熟者ですので温かく見守って下さい。



長沼昭太郎
(ながぬましょうたろう)
22歳(山梨県出身)
西宮市在住

大学1年時に兵庫区で震災ボランティアとして活動させてもらい、今年からサラリーマンになった私は、今ではその兵庫区が営業エリアとなりました。たいしたことしていないのに、このコーナーに出させてもらい光栄です。社会人なので、やれることには限度がありますが、やれることは最大限やっています。

よろしくおねがいします

まち・コミ 10月号も行く!

御蔵通6丁目に遺跡があったんだから、まちコミの事務所がある5丁目にも何かあるんじゃないかなーって、わくわくドキドキしながら、発掘現場をのぞいてみる今日この頃です。まだ特別何も見つかっていませんが、世界中が驚くようなものが出てきたらどうでしょう。(とだ)

10月

- | | | | |
|-----|--|-----|-------------------|
| 1日 | 英国ボランティア活動研究所 所長 J・スミス氏来所 | 13日 | 住市総の設計・地盤調査補助金申請 |
| 2日 | 震災検証プロジェクト打ち合わせ | 14日 | 神戸パースペクティブ打ち合わせ |
| 4日 | 共同化住宅個別ヒアリング | 15日 | 元気アップ交流会準備会 |
| 5日 | ボランティア共同事務所管理組合会議
月刊まち・コミ 10月号印刷・発送 | 16日 | 神戸パースペクティブ第3回 |
| 7日 | 御蔵通5・6丁目町づくり協議会役員会 | 18日 | 「栗ご飯とチャンバラ映画の集い」 |
| 11日 | 長田交流会主催「お茶会」 | 21日 | 「検証プロジェクト」の打ち合わせ |
| | | 24日 | SVA 市川氏来所・打ち合わせ |
| | | 26日 | ボランティア共同事務所管理組合会議 |
| | | 31日 | 共同化組合会議 |

募金・協力 (8/25~9/27) ありがとうございます! (敬称は略させていただきます。)

●募金●

- (株)森長組神戸支店 (神戸市)
- 豊根三恵子 (神戸市)
- 飯倉寺 吉川俊雄 (山口県)
- 友松寺 永代素宏 (三木市)
- 遠藤勝裕 (埼玉県)
- 澤田修一郎 (京都府)
- 秦洋一・靖枝 (茨城県)
- 酒井健吉・輝子 (神戸市)

- 喫茶店おととと 松崎智恵美・なるみ (熊本県)
- 池永利昭 (千葉県)
- 長田郵便局 原田敏秋 (神戸市)
- (有)ふれあいの里上月 (佐用郡)
- 望月南穂 (千葉県)
- (株)吉留建築設計 吉留浩一 (東京都)

●協力●

- (株)兵庫商会 (神戸市)
- 曹洞宗国際ボランティア会 (東京都)

通信費カンパ・募金のお願い & 定期購読のおすすめ

現在、まち・コミュニケーションでは、活動に必要な資金への募金のお願いをしております。台所事情は楽ではありませんが、活動に当たっては、通信費はもちろん、事務所運営維持費や消耗品費など、支出の避けられないものが多々あります。今後の被災地のまち復興のための活動へのご支援を、よろしくお願いたします。

【郵便振替口座番号】 00950-3-42788

【口座名称】「まち・コミュニケーション事務局」



また、この通信紙を継続的にお読みにになりたい方は表の事務所連絡先までご連絡下さい。

編集後記

- ★と言うわけで、検証作業をポチポチと始めます。みなさま何とぞお力添えを(こればっか)。今号から本格的に本誌担当の戸田さん。彼女も馴染みが早い。あ、もちろん仕事に、ですよ(ね?) (小野)
- ★最近、神戸の街の魅力についてあらためて、思考が巡ります。震災前からつちかわれた想いや伝統、暮らしが、豊かすぎる時代の後ろでひっそり息づいていた。もっとそれが掘り出されてもいい… (浅野)
- ★“共同化” 予定地の遺跡調査が10/29に終わり、僕のバイトも一段落。11/5から今度は兵庫商会有地で、遺跡バイト再開。かつてのボランティア村で、もう少し、仕事をさせていただきます。(吉田)
- ★先日「シティオブエンジェル」を見ました。あの美しいメグ・ライアンが、死神っぽい天使のニコラス・ケージを好きになるって絶対変だ!! (とっているのは私だけ?) (戸田)